

和寒町字西和出身の

加藤大平選手

特集

ノルディック世界選手権で金

日本勢14年ぶりの快挙 ノルディック複合団体競技

チェコのリベレツで行われたノルディックスキー世界選手権大会の複合団体競技のメンバーとして選抜され、見事世界一となった西和出身の加藤大平選手と喜びの声を紹介します。



平成19年4月に和寒町役場を訪れた加藤大平選手

金メダル獲得の快挙
2月26日チェコのリベレツで行われたノルディックスキー世界選手権の複合団体競技で見事日本が世界一の座を14年ぶりに獲得しました。この日本代表選手の一人に選抜され活躍したのが、和寒町字西和で酪農を営む加藤邦雄さん、順子さんの次男「加藤大平さん」です。
日本は、前半のジャンプ競技（K点120m）で、加藤選手のK点を超える128mという大ジャンプが大きな貢献を果たし、5位につけ、

後半の距離で、日本勢の強さを見せつけ一気に逆転優勝するという、劇的な展開となりました。
翌日のテレビや新聞では、14年ぶりの金メダル獲得が大きく取り上げられ、その快挙に盛り上がりを見せるとともに、和寒町が加藤大平選手の出身地であることから、多くの問い合わせがあるなど、町内にも大きな喜びが広がりました。
金メダルに大きな喜び
加藤選手の大活躍を紹介したいと訪れた各新聞社の取材に対し、伊藤



役場庁舎に掲げられた懸垂幕



下川商業高校時代の加藤選手

町長は「金メダルという快挙をうれしく思う。町民の皆さんに明るい話題を提供してくれた。関係機関と協議し、健闘を讃える方法を検討したい」と喜びを伝えました。
また、早速お昼の防災無線でその快挙を伝えるとともに、役場庁舎及びスキー場入口に「感動をありがとう 祝金メダル 加藤大平選手」と書かれた懸垂幕を掲げ、その喜びを町民の皆さんに伝えました。



金メダルの快挙に笑顔で喜ぶ邦雄さん、順子さん

から活躍しています。

ご両親の自宅では
祝金メダルの一報が報じられる前

コンバインドとの出会い
加藤選手は和寒町字西和で育ち、
兄、弟、妹の4人兄弟といった環境
で育ちました。兄の影響を受けて小
学4年生のときに少年団に入部。以
来中学校では、3年生のときに全道
中学スキー大会のコンバインド競技
で全道優勝し、全国大会へ出場。そ
の後数多くのジャンプ選手が育つた
下川商業高校に入学。全道・全国大
会で活躍したのはもちろんのこと、
この頃から世界大会での活躍も見ら
れるようになりました。高校卒業後
は、サッポロノルディッククラブに
入社し、現在まで世界中を転戦しな

から、加藤選手の実家である加藤邦
雄さん、順子さんの自宅では、その
夜に放送されていた録画番組を見て
いました。そんな時、加藤選手本人
からの電話が直接実家にかかってき
ました。しかし、本人は金メダルを
獲得したことを一言も言わず、最後
まで録画放送を見てほしいとだけ告
げ、電話を切りました。邦雄さんは
「今思うと、電話の向こうでは、に
やけていたのでは」とその時を振り
返ります。

録画放送の後半

距離競技では第2
走を走った大平さ
んにリレーが繋が
り、5チームでの
デットヒートが繰
り広げられていま
した。そして、日
本チームのアンカ
ー小林さんが大逆
転での金メダルを
獲得。テレビに
は、金メダルを獲
得した大平さんの
姿がありました。

邦雄さん、順子さんは大変驚いた
といえます。翌日には、お祝いの言
葉や取材などの電話が朝から鳴り響
きました。

各新聞社の取材に対し邦雄さんは
「感無量。この競技をやらせてよか
った。同じ競技をしている兄と弟の
夢をかなえてくれた。オリンピック
に弾みがつく。支えてくれた人たち
のお陰。再会したら息子の手からメ
ダルをかけて欲しい」と、また順子
さんは「信じられない。まさか金を
とるとは。おめでとう、おつかれさ
んと言っただけ」と大平さんの
活躍に笑顔で答えていました。

中学時代の指導者から

中学時代のコーチを務めていた栗
山本幸さんは朝5時頃の二コースで
この快挙を知りました。早速、加藤
さんの自宅に祝福の電話をかけまし
た。加藤さんの自宅にかかってきた
電話は栗山さんが一番だったとい
います。

栗山さんは「おとなしい子だった
が地道に自分のペースで練習し、中
学3年の全道大会で優勝してから成
長した。何と言っただけならいいか
わからないくらいうれしい。ワック
スの影響など毎回いいコンディショ
ンで望めるものでもない。支えてく
れた人たちへの感謝の気持ちを忘れ



西和小学校のスキー大会で初めて
ジャンプを飛んだ加藤大平さん

ず、まだ若いので、これからもど
ん活躍してほしい」と今後の活躍
に期待を寄せていました。

スキー協会会長から

現在、スキー協会会長を務める塚
崎正さんは、少年団入部時から加藤
選手の活躍を目にしてきました。

塚崎さんは「西和からの送り迎え
などご両親の苦労と理解があつてこ
その結果、指導者の指導をまじめに
受けていたのが印象的。加藤選手は
どちらかというとジャンプが得意な
選手ではあるが、距離でも相当努力
して練習した成果が表れたのではな
いか。今後、ジャンプ・距離競技に
一層磨きをかけ、基礎体力をしっか
りつけて、今後のパンクパーオーリ
ンピックなどでの活躍を期待した
い」と期待を寄せていました。